



WHO（世界保健機構）による

鍼灸治療適応症について

医学Ⅱ西洋医学と考える傾向がある日本ではまだまだ

認知度が低い東洋医学の鍼灸治療ですが、徐々にその効

果が国際的に認められ始めています。WHO（世界保健機

構）が1986年に鍼灸治療で効果があると認定したも

の（41疾患）を参考までに紹介します。左記の表（表1）

はこれらの疾患にしか効果が無いというものではありません

あくまでWHOの国際基準を提示したものではありません

鍼灸治療には施術者の技術差や患者の施術を受ける意

識により効果が変わることは否めません。鍼灸治療が有

効であるとして多くの治療院で浸透しているように詳し

い疾患も合わせて掲載いたしますので（表2）、症状に

悩む患者にとって少しでも改善できる助けとなるよう

に、そして施術側にとってわずかな悩みから適切な施術

を行うための参考としていただければ幸いです。

●WHO（世界保健機構）による認定鍼灸治療適応症一覧（表1）

分 類	疾 患 名
上気道疾患	急性副鼻腔炎 急性鼻炎 感冒 急性扁桃炎
呼吸器系疾患	2 急性気管支炎 気管支喘息
目の障害疾患	4 急性結膜炎 中心性網膜炎 近視 白内障
口の障害疾患	4 歯痛・抜歯後の疼痛 歯肉炎 急性咽頭炎
胃腸障害疾患	12 食道噴門痙攣 しゃっくり 胃下垂 急性胃炎および慢性胃炎 胃酸過多症 慢性十二指腸潰瘍 急性十二指腸潰瘍 急性腸炎 および慢性腸炎 急性細菌性下痢 便秘 下痢 麻痺性イレウス
神経系および筋骨格障害	頭痛 片頭痛 三叉神経痛 顔面神経麻痺 メニエール病 神経性膀胱障害 夜尿症 肋間神経痛 頸腕症候群（五十肩・テニス肘） 坐骨神経痛 腰痛 関節炎 末梢神経疾患 打撲による麻痺 多発性筋炎の筋発症

●鍼灸治療で有効性がある病気として認知されている疾患（表2）

分 類	疾 患 名
運動器系疾患	関節炎 リウマチ 頸肩腕症候群（肩の張り・首の張り） 五十肩 腱鞘炎 腰痛 外傷の後遺症（骨折・むちうち・捻挫）
神経系疾患	神経痛 神経麻痺 痙攣 脳卒中後遺症 自律神経失調症 頭痛 めまい 不眠 ノイローゼ ヒスチリー
消化器系疾患	胃腸病（胃痛・消化不良・胃下垂・胃酸過多・下痢・便秘） 胆嚢炎 肝炎 胃十二指腸潰瘍 痔
呼吸器系疾患	気管支炎 喘息 風及び予防
循環器系疾患	心臓神経症 動脈硬化 高血圧 低血圧 動悸 息切れ
眼科系疾患	眼精疲労 仮性近視 結膜炎 疲れ目 かすみ目 ものもらい
耳鼻咽喉科系疾患	中耳炎 耳鳴 難聴 メニエール病 鼻出血 鼻炎 蓄膿症 咽喉頭炎 扁桃炎
内分泌系疾患	バセドウ病 糖尿病 痛風 貧血
生殖泌尿器系疾患	膀胱炎 尿道炎 性機能障害 尿閉 腎炎 前立腺肥大 陰囊
婦人科系疾患	更年期障害 乳腺炎 白帯下 生理痛 月経不順 冷え性 血の道 不妊
小児科系疾患	小児神経症（夜泣き・かんむし・夜啼・消化不良・偏食・食振不振・不眠） 小児喘息 アレルギー性湿疹 耳下腺炎 夜尿症 虚弱体質の改善



●就業施術者数・施術所数と前回比較

北海道	令和6年	令和4年 (前回)	前回比 増減数(人)	増減率(%)
あて指師	3,103	3,118	△ 15	△ 0.5
はり師	5,072	4,760	312	6.2
きゅう師	5,020	4,694	326	6.5
柔整師	2,604	2,532	72	2.8
あて指のみ	659	668	△ 9	△ 1.4
鍼灸のみ	1,547	1,429	118	7.6
あはき	1,062	1,067	△ 5	△ 0.5
柔整	1,896	1,903	△ 7	△ 0.4

就業施術者数	施術所数
あて指師	3,103
はり師	5,072
きゅう師	5,020
柔整師	2,604
あて指のみ	659
鍼灸のみ	1,547
あはき	1,062
柔整	1,896

近年、鍼灸・あん摩マッサージ指圧・柔道整復を取り巻く環境は、大きな転換期を迎えています。こうした中、鍼灸系整新開9月号に掲載された全国的な動きを踏まえつつ、北海道の実情を把握するため、施術所数の推移を整理しました。

当組合で整理したデータによると、北海道における施術所数は、ここ数年、大きな増減は見られず、全体として横ばい傾向にあります。全国では分野ごとに増減の差が広がる動きが見られる中、北海道では急激な増加・減少のいずれも起きにくい状況が続いています。

一方で、分野別に見ると、新規開設と廃止が並行して

編集後記

来月冬季オリンピックがイタリヤのミラノ・コルナテで開催されます。先日某新聞で帯同メンバーとしてオリンピックに派遣される可能性のある札幌市の鍼灸師の方の記事を目にしました。施術所で日々の患者

北海道における施術所数の現状 — 全国動向を踏まえた独自整理 —

進むなど、静かな変化が生じています。後継者不在や高齢を理由とした閉所もあり、数値上は横ばいであっても、その内側では世代交代や経営環境の変化が進んでいるところかがえます。

施術所数が維持されていることは一定の安心材料ではありますが、それが経営の安定を意味するわけではなく、むしろ今後の事業を継続していくかが、より一層重要になってくると思われます。

本稿で示したデータが、組合員の皆さま一人ひとりが自院の将来を考えるための材料となれば幸いです。

全国	令和6年	令和4年 (前回)	前回比 増減数(人)	増減率(%)
あて指師	119,703	118,913	790	0.7
はり師	136,736	131,486	5,250	4.0
きゅう師	134,730	129,478	5,252	4.1
柔整師	78,666	77,632	1,034	1.3
あて指のみ	17,531	18,017	△ 486	△ 2.7
鍼灸のみ	35,494	33,890	1,604	4.7
あはき	38,595	38,374	221	0.6
柔整	50,924	50,916	8	0.0

就業施術者数	施術所数
あて指師	119,703
はり師	136,736
きゅう師	134,730
柔整師	78,666
あて指のみ	17,531
鍼灸のみ	35,494
あはき	38,595
柔整	50,924

様と向き合うだけではなく、オリンピックという大舞台で選手を支える立場で参加できる鍼灸師の技術は素人の方がいることを感じながら観戦したいと思います！

本年も変わらぬようしくお願い申し上げます。

（次号は3月発行予定です）

※は記事の編集後記として「2026年当分の発行枚数は10億7千万枚」と記載しましたが、正しくは「億7千万枚」でした。お詫言して訂正いたします。